

2014年度第8回執行理事会議事録

期 日：2015年1月24日（土）13:00～15:40

場 所：地質学会事務局

出席者：井龍会長 山本副会長 齋藤常務理事 海野
ウォリス 竹内 平田 廣木 星 保柳 松田
山路（事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり）：渡部副会長 緒方 坂口（井
龍） 杉田 中澤

*定足数（12，委任状含む）に対し，出席者16名，委
任状 1名，合計17名の出席。

*前回議事録の承認

I 審議事項

1. 長野大会委託業者の選定（竹内理事）

複数業者からの見積もりを取得。業者間の見積もり
項目の調整など引き続き検討する。2月には決定
できる予定。

2. 長野大会国際セッション等（杉田理事提案法地質 学）の提案受理の手続きについて（保柳）

具体的なセッション提案書を準備して頂き，その
規模，内容によって共催，業務委託，シンポジウム
にするなど検討する。これまでの事例についての情
報を杉田理事にお伝えし，検討して貰う。東アジア
の古生代のシンポジウムも検討している（ウォリス
理事）。

3. ジオパーク日本委員会の委員の交代：高木委員の 交代（ジオパーク支援委員長代，齋藤理事）

高木委員から平田委員に正式に交代する。齋藤理
事からJGC日本ジオパーク委員会に通知する。

4. 県の石の進捗状況→これに関連して，地質学会の HPに地学関連の天然記念物のリストを掲載する件に関 して（井龍会長）

中間報告を執行理事会に近日中に出して頂く。天
然記念物リストについては，e-フェンスター（天然
記念物めぐり）との調整等を行い（広報担当）ホーム
ページに掲載する。

5. ベトナム地質学会との連携に関して（井龍会長）

過去の経緯をよく調べて，今後の連携を図るよう
にする。

6. GSAのAssociate societyになる件に関して（井龍 会長）

本件は丁重にお断りした。MOUについては，将来的
に可能性あり。

7. IUGSとの関係に関して（井龍会長）

地質学会がIUGSのAffiliated Organizationsとな
ることによる利点と難点を精査する。

II 報告事項

1. 全体的報告（メール審議確認）

- (1) 理事会後に岩石部会から，県の石選定委員として
辻森樹会員の推薦があり，理事会議事録に追記した。
- (2) 『原子力学会は，“原発の敷地内にある破砕帯など
の断層について，原子炉建屋への影響などを評価す
る方法を策定する調査専門委員会を発足させた，委
員会には土木学会や地質学会，電力会社なども加わ
っている。』との記事が1月8日付の毎日新聞に掲載
された。この件について，地質学会は，原子力学会
からは本件に係わるいかなる申し入れや要請も受け
ておらず，また同委員会に係わる本学会員からの報
告等もなかったことから，原子力学会に対し，事実
関係の公表とお詫びを至急公表するとともに，報道
機関に対して訂正を依頼するよう，齋藤常務理事名
で申し入れをした。結果は，原子力学会が記者会見
において，誤解を招く資料を配布したことを認め，
1/14に原子力学会HPにお詫び文が掲載された。これ
を受けて，1/15の毎日新聞に訂正記事が掲載された。
以上のことは，geo-flashで会員に知らせるとともに，
HPに掲載した。その後，原子力学会から，事務局に
お詫び文が届き，また，齋藤常務理事には訪問のう
え事情説明したい旨，連絡があり，齋藤常務が面談
することとした。

2. 運営財政部会：総務委員会（緒方）

<共催・後援依頼，他団体の募集等>

- (1) 高校生科学技術チャレンジISEC2014最終審査会・
表彰式の案内（12/14）→欠席の返事
- (2) 第5回ジオパーク全国大会（南アルプス大会，後
援）終了報告
- (3) 第15回子供のためのジオカーニバル（後援）終了
報告
- (4) CCOP2013総会（仙台市）論文集の完成送付あり。
- (5) 奥出雲多根自然博物館より，昨年につきフォトコ
ン入選作品展（2015/1/2-2/2）の共催申し入れ
があり，承諾した。

<その他>

- (1) 「平成27年度消防防災科学技術研究推進制度」研
究課題の公募（12/6-3/6）

<会員>

- (1) 今月の入会者（6名…正：4，院割：1，学部割：
1）
2014年度から入会希望
正会員〔3名〕：川原健太郎，村田泰輔，浅田美穂
2015年度から入会希望

正会員〔1名〕：持永竜郎

正（院割）会員〔1名〕：三塚俊輔

正（学部割）会員〔1名〕：日色知也

(2) 今月の退会者（2名）

正会員〔2名〕丸茂克美、安藤佑介

(3) 今月の逝去者（正会員 7名）

吉川清志（2010年12月11日）・今田耕二（2014年7月

25日）・中島和一（〃 9月13日）・青野宏美（〃

11月11日）・平井明夫（〃 12月21日）・狛武

（2015年1月7日）済川 要（〃 1月10日）

(4) 2014年12月末日会員数

賛助：27, 名誉：64, 正会員：3828（正会員：3641,

正（院割）会員：171正（学部割）会員：16）合計

3919（昨年比-77）

3. 広報部会：広報委員会（坂口・松田）

・専門部会の英文紹介文は、環境地質（楡井部会長）以外全て掲載済み。英文校正に掛かった費用は約14,000円。

・フォトコンの応募状況 現時点で約110件、締め切りは2/16

4. 学術研究部会（ウォリス・竹内・中澤）

(1) 行事委員会（竹内）

・総会時講演会の講演者及び演題：2015地質学会総会講演会講演者として、各部会・理事からの意見を聞き、候補者に依頼をした結果、下記の方々から講演受諾の返事を頂いた。なお、代議員及び理事以外の方には旅費を支給することとした。

辻 健（九州大学）「デジタル岩石物理を用いた現行地質過程研究」

横山俊治（高知大学）「2014年広島土石流災害関連」

土屋範芳（東北大）「島弧の熱構造とエネルギー抽出—超臨界地熱掘削—」

針金由美子（産総研）「伊豆—小笠原前弧域から採取されたかんらん岩から推測される島弧初期の上部マントル構造」

・徳橋さんの意見に関しては、1月号に回答を掲載。行事委員会で引き続き検討する。

(2) 国際交流委員会（ウォリス）

・日本—台湾の学術交流協定締結のその後は？学会の名称を修正して返信した。

・台湾地質学会国際交流担当のLin博士に長野大会への出席を依頼、快諾。旅費は信州大学に申請準備中。学会の招待と合わせて2名の招請が可能。

・津波シンポジウム（Arthur Holmes Meeting）が2015年9月に開催される。News誌1月号の裏表紙に掲載。

(3) JIS, 標準担当（中澤）

・地層名等層序単元登録審査委員会の設置について関連学協会に委員の推薦を依頼中、現在までに第四紀、地団研、地学協会からは人名の推薦有。今月末までに決まる予定。

5. 編集出版部会（山路・海野・保柳）

(1) 地質学雑誌編集委員会（山路）

1) 編集状況報告（1月20日現在）。

・投稿論文状況

2014年投稿論文 総数65編〔総説5（和文4・英文1）・論説33（和文33）・ノート1（和文1）・報告9（和文7・英文2）・口絵8（和文5・英文3）・巡検案内9〕

2015年投稿論文 総数5編〔論説3（和文3）・報告2（和文2）〕

査読中 14編, 受理済み7編（うち特集号6 通常号1）

・120巻12号：特集号 地層処分と地質科学（その2）地質環境の長期挙動とサイト調査：総説1, 論説2, 口絵1（51頁：1/9発送済み）

・121巻1号：論説2（約33頁：1/23校了予定）

・121巻1月号より、新設の著者プロフィール欄の掲載を開始した。

(2) アイランドアーク編集委員会（海野）

・編集状況報告

(3) 企画出版委員会（保柳）

・長瀬たんけんマップの修正案について、校閲中。

・大島・三宅島たんけんマップの企画提案が

あり、現在委員会で採否の検討中。

6. 社会貢献部会（平田・杉田・廣木）

(1) 「学習指導要領改訂に向けての意見を取りまとめるためのワーキンググループ」（廣木）

メンバー：中村教博 安間了 渡来めぐみ 星理事 平田理事 中澤理事 杉田理事

とりまとめた意見は、理事会で承認ののち、会長名で文科省に提出する。

(2) 地質調査研修について

1) 2014年秋季地質調査研修の収支報告

収入720,000円、支出619,733円で差し引き100,267円の黒字となった。

2) 本年も例年通り、春と秋の2回実施することとしたい。

春期講習については5/18～22に産総研徳橋・小松原両氏を講師として実施の予定。

(3) 2015年地質の日記念行事について

1) 鈴木毅彦教授に講師を引き受けていただいた（等々力溪谷周辺の案内）。

2) 1/10に等々力溪谷周辺の下見と打ち合わせを実施した。

世田谷区（玉川総合支所）に後援を依頼することとし、資料を送付した。また、現地周辺の古墳について説明者の派遣をお願いすることとし、内諾を得た。

3) 参加者の募集は4/1から開始し、申込先は地質学会に一本化する。

7. ジオパーク支援委員会（平田）

- (1) 地震火山サマースクールについて
- ・3学会（地質学会，地震学会，火山学会）による申し合わせ事項の改正
- ・運営体制・実施スケジュール・開催地公募の検討

8. 地学オリンピック支援委員会

- (1) 2015年1月10日に地学オリンピック支援委員会を開催
- ・予選問題の評価について：第7回日本地学オリンピック予選は，2296名の応募があった．会場数は77会場（大学36，高校40，博物館1）で，1868名が受験した．予選結果が大学入試に利用できることを考慮し，今後も外部評価という観点から，予選問題の評価を行い，地学オリンピック日本委員会に提出する予定．
- ・キャラクターデザインコンテストの一次審査を実施．13作品を佳作，二次審査通過作品3点（作品15，36，40）とした．なお，酷似する作品が見つかった時点で作品を選考の対象から外すこととする．

9. 地質災害委員会（斎藤）

- ・御嶽の火山災害については，竹下会員（信州大）より報告が寄稿され，1月号のNews誌に掲載される．

10. 地質技術者教育委員会（山本）

11. 中期ビジョン委員会検討報告書最終版作成までのスケジュール

- 12月：できている部分から，会員からの意見募集開始
- 1月：残りの部分の完成と意見募集
- 2月：News誌にWG案掲載，意見募集
- 3月：意見集約とまとめ
- 4月：理事会で最終案の了承
- 5月：総会にて新中期ビジョン提出

12. 法務委員会（上砂委員長，代斎藤）

- ・法務委員会を1/15に開催した．「機関リポジトリについて」会長からの検討要請事項について，委員会としての検討報告がなされた．編集規則等の変更修正が必要かどうかについては，法務委員会で検討し，答申する．
- ・法務委員会の委員構成について次世代を担う委員の補充が必要なことから，編集委員会その他から3名ほどの新委員を選出することとした．

2015年2月14日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会 長（代表理事） 井龍康文
署名人 執行理事 斎藤 眞